

学級経営と教科指導双方の効果最大化を図る学級担任としての実践

学級担任の利点を生かして、学級経営を英語の指導に生かすとともに、英語の指導を通して学級経営の充実を図りながら、児童がより主体的に学ぶことができる言語活動を行う。

単元名 「Let's go to Italy.」 (NEW HORIZON Elementary English Course 6)

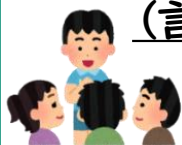
単元の中心的な学習課題 自分のおすすめしたい地域の観光大使になって、宇土市に新しく来たALTの先生たち全てにPR動画を贈ろう。

学級経営を生かした教科指導

✓ 児童の興味・関心や人間関係等の実態に応じた学習課題や学習形態の工夫を行う。

✓ 安心できる学習環境の中で、英語を使った「本物」のコミュニケーション(言語活動)を行う。

授業の様子



ある児童が、自分の興味のある国について、自分の思いをどうにかして英語で伝えたいけれどもできないと困っていた。しかし、普段から「まずはお互いを知ること」「分からないことを分からないと言える関係をつくり、班で助け合うこと」を大事に学級経営を行っているため、当該児童は安心して周りに「分からない」を伝え、それを学級や班全員で解決しようと協力していた。



言語活動の充実
～外国語教育の
特質を生かして～

深い児童理解を土台に

教科指導を通じた学級経営

✓ 担任自身が英語で積極的に児童とやり取りをしながら、児童についての新たな発見やよさを見付ける。

✓ 児童同士の交流の場を多く設け、互いをより深く知る機会とする。

授業の様子

どの国や地域が好きかなどのやり取りをする場面で、児童に理由を加えさせることで互いの新たな一面を知り合う機会となった。

また、担任自身が積極的に英語を使い、英語は「使いながら、間違いながら、学んでいくもの」「まず伝えようとする気持ちが大事」であることを示すことで、児童も間違いを恐れず積極的に自分の思いを発信していた。



本実践の単元終末の言語活動は、「自分の行ったことのあるおすすめの日本の地域」について、「宇土市内の学校に新しく来られたALTの先生たち」【伝える相手とその状況】に対して、「行きたいと思ってもらえるような地域紹介の動画を作って贈ろう」【伝える目的やその場面】でした。さらに、そこに至るまでに、児童が単元終末の言語活動に向けて、学級内で互いの考えや気持ちを繰り返し伝え合う場が仕込まれていました。



令和5年度 宇土市立花園小学校

Point!

実際に英語を使うコミュニケーションが求められる英語の授業では、児童同士の様々な交流の機会が自然と増え、相互理解や仲間づくりのきっかけとなることも多くあります。

だからこそ、学習課題(言語活動)は、児童が「相手意識」や「目的意識」を明確にもって、相手に配慮しながら自分の考えや気持ちを伝え合う「本物」のコミュニケーションとなるような場の設定をすることがポイントとなります。

